

平成 29 年 1 月 27 日

経営系専門職大学院基準（改定案）に対する意見募集の結果について

公益財団法人 大学基準協会
基準委員会
委員長 圓月勝博

本協会の経営系専門職大学院基準（改定案）に対して、正会員大学、賛助会員大学をはじめとした関係者各位より貴重なご意見を賜りました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

この度の意見募集の結果及びご意見を踏まえた本協会の対応を以下の通り公表いたします。

【意見募集の概要】

1	案 件 名	経営系専門職大学院基準（改定案）に対する意見募集
2	意 見 募 集 期 間	平成 28 年 9 月 28 日（水）～同年 10 月 24 日（月）
3	意 見 提 出 者 数	2 大学及び 1 個人
4	内容別にみた意見件数	8 件
5	意見の受け取り方法	電子メール

経営系専門職大学院基準（改定案）に対する意見への対応

No.	意見	意見を踏まえた修正	理由
1	<p><項目></p> <p>2 教育の内容・方法・成果（1）教育課程・教育内容 項目4：教育課程の編成 評価の視点 2-4（9頁）</p> <p><意見></p> <p>「固有の目的に即して、どのような特色ある科目を配置しているか。」の言葉には、評価項目の視点が記載されておらず基準として分かりにくい表現となっています。「<u>授業科目には、固有の目的に即して、どのような特色ある科目を配置しているか。</u>」とすることで視点の目的が分かりやすくなるので追記の必要があると思います。</p>	<p>【修正前】</p> <p>「2-4 固有の目的に即して、どのような特色ある科目を配置しているか。」</p> <p>【修正後】</p> <p>「2-4 <u>授業科目には、固有の目的に即して、どのような特色ある科目を配置しているか。</u>」</p>	<p>ご意見を踏まえ、該当箇所の表現を明確にするとともに、他の基準と整合性を図るため、修正します。</p>
2	<p><項目></p> <p>2 教育の内容・方法・成果（2）教育方法 項目7：授業の方法等 評価の視点 2-16（12頁）</p> <p><意見></p> <p>1つの授業科目について同時に授業を受ける学生数は授業の方法、施設・設備その他の教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられる適当な人数となっていることについては、F群（Fundamental）経営系専門職大学院に基本的に求められる事項で</p>	<p>修正なし。</p>	<p>本視点は、法令遵守の観点に沿った評価を行うため、L群にのみ区分をしています。 よって修正はいたしません。</p>

経営系専門職大学院基準（改定案）に対する意見募集の結果について

No.	意見	意見を踏まえた修正	理由
	あり、L群（Legal）だけでなく、区分に追記する必要があると思います。		
3	<p><項目> 2 教育の内容・方法・成果（2）教育内容 項目7：授業の方法等 評価の視点2-18（12頁）</p> <p><意見> 視点番号2-2（8頁）において、教育課程の編成にあたっては、「高い職業倫理観とグローバルな視野をもった人材を養成する観点から適切に編成していること」を掲げているが、視点番号2-18では、「グローバルな視野を持った人材養成を推進するために、どのような教育方法を導入しているか」と述べています。視点番号2-2との関連でいうと、やはり「高い職業倫理観をもった人材養成を推進するために、どのような教育方法を導入しているか」という視点を追加したほうがよいのではないかと思います。</p>	修正なし。	<p>特に、グローバルな視点をもった人材育成は、教育内容に限らず、教育方法による取り組みも考えられることから、評価の視点を設定している経緯があります。</p> <p>ご指摘の「高い職業倫理観を持った人材養成」のための教育方法については、評価を行ううえで十分に配慮いたします。</p>
4	<p><項目> 2 教育の内容・方法・成果（2）教育方法 項目10：改善のため組織的な研修等 評価の視点2-29（15頁）</p> <p><意見> 「研究者教員の実務上の知見の充実・・・」とあるが、「知見」</p>	修正なし。	<p>専門職大学院は、研究者教員と実務家教員による理論と実務の架橋を図った教育を行います。よって、研究者教員に最低限の実務上の知見が求められ、実務家教員に教育上の指導能力が必要と認識しており、その点にも配慮した評価を行っています。</p>

経営系専門職大学院基準（改定案）に対する意見募集の結果について

No.	意見	意見を踏まえた修正	理由
	<p>だけであれば曖昧な印象を受ける。単に企業社会のことを学んでいるという意味での「知見」だけではなく、研究者教員であっても企業等で（短期でも）実務の「体験」を積むように促すべきではないか。</p>		
5	<p><項目> 2 教育の内容・方法・成果（3）成果 項目 11：教育成果の評価の活用 評価の視点 2-32（16 頁）</p> <p><意見> 「学位の授与状況、修了者の進路状況等を踏まえ、固有の目的に即して教育成果を評価し、・・・」とあるが、「修了者の進路状況等を踏まえ」という文言が教育成果の評価項目を曖昧にしている印象を受ける。学生の進路ニーズは、①勤務企業でのキャリアアップ、②転職、③新規就職、④博士課程進学等さまざまであり、それをどのように「踏まえる」のか、あるいは踏まえるべきなのか、明確ではない。</p>	修正なし。	<p>ご指摘のように、学生のニーズは多様であり、それらの捉え方は各経営系専門職大学院によって異なると考えております。</p> <p>したがって、教育成果の評価項目を限定することのないよう、基準（改定案）ではこのような表現としています。</p>
6	<p><項目> 3 教員・教員組織 項目 12：専任教員数、構成等 評価の視点 3-8（18 頁）</p> <p><意見> 「経営系各分野の特性に応じた基本的な科目、実務の基礎・技能</p>	修正なし。	<p>「経営系各分野の特性に応じたカリキュラムの中核をなす基本的な科目……（以下略）……」とした場合、コアカリキュラムの導入を前提としていると誤って解釈される恐れがあります。</p> <p>コアカリキュラムの導入については、教育内容の可視化などの利</p>

経営系専門職大学院基準（改定案）に対する意見募集の結果について

No.	意見	意見を踏まえた修正	理由
	<p>を学ぶ科目、基礎知識を展開・発展させる科目について専任教員を中心に適切に配置していること。」について、次のように、他の大学基準と表記を整える必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>「経営系各分野の特性に応じたカリキュラムの中核をなす基本的な科目、実務の基礎・技能を学ぶ科目、基礎知識を展開・発展させる科目について専任教員を中心に適切に配置していること。」</p>		<p>点が指摘されておりますが、経営系専門職大学院の場合、特にその教育課程や教育内容の多様性に鑑みて、コアカリキュラムを当てはめた評価は適さないと考えられるため、修正しません。</p>
7	<p><項目></p> <p>3 教員・教員組織</p> <p>項目 12：専任教員数、構成等</p> <p>評価の視点 3-9（18 頁）</p> <p><意見></p> <p>「3-8」で示した点と同様に、文言の統一が必要ではないのでしょうか。</p> <p>「経営系各分野において理論性を重視する科目、実践性を重視する科目にそれぞれカリキュラムの中核をなす適切な教員を配置していること。」</p>	同上	同上
8	<p><項目></p> <p>5 学生支援</p> <p>項目 16：学生支援（23～24 頁）</p> <p><意見></p> <p>評価の視点に、「留学生・社会人学生を受け入れるための支援体制を整備し、支援を行っているか。」が抜けていますので、追記す</p>	<p>【修正前】</p> <p>「5-4 障がいのある者、留学生、社会人学生等を受け入れるための支援体制を整備し、支援を行っているか。」</p> <p style="text-align: right;">A群</p>	<p>評価の視点 5-4 に、該当する視点がございませぬ。ただし、他の専門職大学院基準との整合性に鑑み、左記のとおり修正します。</p>

経営系専門職大学院基準（改定案）に対する意見募集の結果について

No.	意見	意見を踏まえた修正	理由
	<p>る必要があるのではないのでしょうか。</p>	<p>【修正後】 <u>「5-4 障がいのある者を受け入れるための支援体制を整備し、支援を行っていること。」</u> F群</p> <p><u>「5-5 留学生・社会人学生を受け入れるための支援体制を整備し、支援を行っているか。」</u> A群</p> <p>(以下、評価の視点の番号を繰り返し)。</p>	

以上